

▶四期目の当選を果たして、早速橋本知事を訪ね、畜産試験場跡地への医科系大学の誘致など公約した地元の課題解決を求めた。(22年12月)



県立中央病院が一段と充実!

救急センター.....2月1日オープン 循環器センター...4月1日稼働予定

— 夢の「救命救急センター」へ大きく前進 —



▲竣工した救急センター(1F)、循環器センター(2F)の全景。ヘリポート(右端)から患者は3F部分へ搬送される。(23年1月)



▲永井秀雄院長は、式典で「救急医療は、医療の原点。死角のない高度な医療を県民に提供していく」と決意を語った。(23年1月)



▲土井副院長らから、説明を受ける。(23年1月)



▲救急センター入口で、担当医師と一緒に。(23年1月)

2010.12.12

4期目当選

引き続き全力投球でがんばります

あたたかいご支援 14,362票ありがとうございました



▲初登庁日は、一番乗りで議員バッジの交付を受けた。4期の重みと責任をずっしりと感じた。



▲選挙の初日に必勝祈願祭を執り行った。新人のときと同じような緊張感でいっぱいだった。



▲なま声でも有権者に訴え、声はかれました。街頭演説は、70回を超えた。



▲告示日の朝、大雨の中必死に訴える。



▲道路で早朝の辻立ち。たくさんの人に励ましを頂いた。



▲告示日前夜の「必勝の集い」では、1,400人を超える皆さんと一緒に「何が何でも勝ちぬくぞ!」。多くの支援者、ボランティアのスタッフの皆さんとの心の絆を大切にしたい。

新県議会の概要

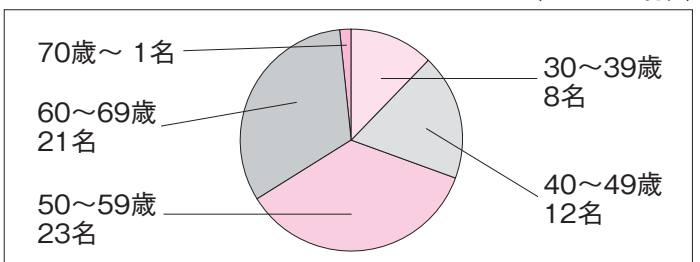
1. 議員定数 65名 (うち、女性議員 4名)
2. 平均年齢 (2011.1.1現在) 53.7歳
3. 当選回数別党派別内訳 (2011.1.11現在)

会派	自民党	いばらき	民主党	公明党	自民県政クラブ	みんなの党	共産党	無所属	計 (人)
1	9	3	1	1	1			3	18
2	10	2	2		1			1	16
3	5								5
4	9								9
5	4		1	2			1		8
6	5	1		1					7
7	2								2
計	44	6	4	4	2	1	4		65

4. 常井議員は、保健福祉委員会、議会運営委員会に所属

5. 年齢別議員数内訳

(2011.1.1現在)



6. 臨時会

- 平成23年1月18日~21日の臨時会で、田山東湖議長を選出し、委員会などの構成を決定しました。また、国の「円高・デフレ対応のための緊急総合経済対策」関連の補正予算を採決しました。

●補正予算 (一般会計) 291億2,100万円

●補正後 (一般会計) 1兆1,307億1,200万円

- ・ 国補公共事業が約139億円追加され、笠間市内の小原、箱田地区の土地改良、泉・山根地区の土砂流出被害防止ダム事業などに配分されます。
- ・ 子宮頸がん予防ワクチン、ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチン接種に約26億円を基金に積み立てた。
- ・ 中央児童相談所の改策などに約7.4億円を充てた。

常井議員は、県民の命を守る中央病院のさらなる充実に向けてがんばります！

救急センター(1階)

2月1日から稼働開始済み

・笠間市はもとより、救急需要の増加が予想される。県北・県央地区の救急医療体制を拡充する目的で設置されました。

1. スタッフ

- (1)医師……高山救急センター長を含め4名の救急部医師を中心に、内科系・外科系の医師が対応
- (2)看護師…救急外来 10名
一般病床 7名(7対1)
ICU 19名(2対1)
- (3)病床数…一般病床 1室7床
ICU 4室6床(うち3室が個室)

2. 施設

- (1)救急外来…蘇生室、初療室、緊急手術室、観察ベッドなど
※救急外来患者、家族の待合室も広く確保した。
- (2)緊急検査…マルチスライスCT、X線一般撮影装置等

3. 受入実績及び目標

- (1)救急患者数………H20年度実績 13,239人
H21年度実績 12,791人
H22年度実績 9,658人
※H22は、12.31現在
- (2)救急車受入件数…H20年度実績 3,796件
H21年度実績 3,336件
H22年度実績 3,018件
※H22は、12.31現在
- (3)救急入院患者数…H20年度実績 3,029人
H21年度実績 3,194人
H22年度実績 2,329人
※H22は、12.31現在

- (4)今後の受入目標…現在の二次、三次(重篤)救急患者の1.5倍程度の受け入れを想定。(最大で救急車5,000台程度/年)



▲救急センターの待合室は、広くて暖かい。内覧会見学の皆さんと。(23年1月)

4. 建設及び

整備の費用…

(救急センター及び循環器センター合計)

- (1)工事費………約8.3億円
- (2)医療機器整備…約12億円

循環器センター(2階)

4月1日から稼働予定

- (1)医師……循環器外科 2名(秋島センター長ほか、筑波大学寄附講座教員1名予定)
循環器内科 4名(うち、1名は筑波大学寄附講座教員)
- (2)看護師…CCU 約20名を予定(2対1)
- (3)病床数…CCU 3室6床(うち2室が個室)
- (4)理念……あらゆる循環器疾患に対応して、内科及び外科による包括的治療を行うことをめざす。

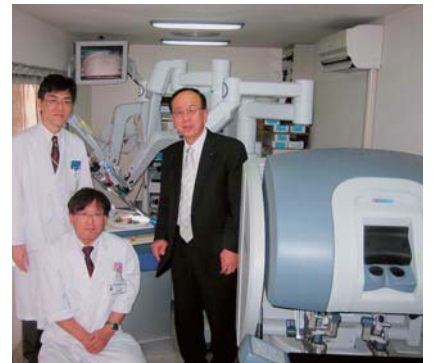
※中央病院で、常井議員が長年の悲願としてきた心臓外科手術ができることとなります。

- (5)循環器疾患…

- 循環器領域疾患は、悪性腫瘍、脳疾患とともに死因の上位に位置している。

- 疾患の特徴として、急性かつ重篤な病態を呈することが多い(急性心筋梗塞、心不全急性増悪、致死性不整脈、大動脈瘤破裂など)。

- 治療においては、その緊急性や特殊性が必要である(経皮的冠動脈形成術<PCI>、冠動脈バイパス術、血栓摘除術、人工血管置換術など)。



▲内覧会の日には、手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」が見本展示された。1台約3億円するが、医師からの整備要望は強い。(23年1月)

ヘリポート

- (1)竣工………2月末完成
- (2)工事費…約1.1億円(設計含む)
- (3)予定………3月上旬から、患者受入れシミュレーションを実施。その後供用開始。

※当面は、ドクターヘリの基地病院である水戸医療センター・水戸済生会総合病院が運航するヘリや防災ヘリの患者の受け入れを予定します。

常井議員は中央病院も基地病院として、同病院のドクターを乗せて飛び立つようにしたいと語っています。

保健福祉委員会(要旨) (H23.1.20)

●子宮頸がんワクチン接種の基本指針を明確に示すべきだ

常井委員 今回の補正予算で、子宮頸がん等接種緊急促進臨時特例交付金が、国から配布され、基金に26億円積み立てるが、その積算根拠と、県内における子宮頸がんによる死亡者数はどのようになっているのか。

入江健康危機管理対策室長 ヒブと小児用肺炎球菌ワクチンの対象者が約15万人で約15億円、12才～16才の女子が対象の子宮頸がん予防ワクチンが約7万人で9億4千万円である。子宮頸がんによる死亡者は年間約60人、罹(り)患者は年間約200人と推計される。

常井委員 対象者全員が接種をする積算をしながら、副反応や健康被害について不安が残るとの説明だが、44市町村が接種実施の意向の中で、その是非を判断するためには県が基本的な考え方を示すべきだ。親や本人の接種の同意の判断材料を国の責任で明確にするよう国にも求めていくべきである。

山口副知事 子宮頸がんワクチンはすべての子宮頸がんを予防できるものではないこと、接種後も検診受診が必要であることなどをきちんと理解した上で接種を受けていただきたいと考えている。ワクチンそのものに関しては研究者によって評価に差があるとも聞くので、予防接種法に則って国の責任で接種が行われることが望ましい。

土井医監 人によって予防接種に対するアレルギーがゼロとは言えないので、健康被害についても、一般の人が分かるような情報提供をしていかなければならない。

※ヒブワクチン…細菌性髄膜炎を防ぐ。
※子宮頸がん予防ワクチン…子宮頸がんの罹(り)患者を予防できるが、その原因となるすべてのウイルスに効くものではない。(予防効果は60～70%と言われている。) このワクチン接種費用は3回接種で48,000円(国45%・市町村45%・個人負担10%)



▲畜産試験場跡地へ「大学誘致を進める会」の皆さんと、橋本知事に医科大学の誘致を要望。(22年12月)



▲大橋地区の東小学校近くの道路整備で、水戸土木事務所の課長らと現地調査。(22年12月)



▲JR岩間駅の橋上化、自由通路の安全祈願祭にて。総工費11億円で、24年春オープン予定。(23年2月)



▲友部リトルシニア修了生は、原田明広監督から、高校野球での活躍を激励された。(22年12月)



▲笠間警察署の年末パトロールには、笠間高校の生徒も参加した。(22年12月)



▲消防団は地域の安心の要。600人の団員による出初式は、勇壮で、とても頼もしく感じた。(23年1月)

畜産試験場跡地の除草を



▲同跡地の国有地部分、約3haには、セイタカアワダチソウなど雑草が繁茂して、地域住民の迷惑になっている。常井議員は水戸財務事務所を訪れ、早期除草を強く要望した。23年5月に除草できるよう予算要求をする旨回答を得た。(22年12月)

笠間市合併後、人口減少が進む！-国勢調査速報(H23.2.25)

(県市町村課調べ)(人)

区分	合併期日	平成15年(10月1日)常住人口	平成16年(10月1日)常住人口	平成17年(10月1日)国勢調査人口(A)	平成18年(10月1日)常住人口	平成19年(10月1日)常住人口	平成20年(10月1日)常住人口	平成21年(10月1日)常住人口	平成22年(10月1日)国勢調査人口速報(B)	増減(B-A)
市町村名										
笠間市	H18.3.19	(82,119)	(81,964)	(81,497)	81,029	80,661	80,365	79,806	79,423	▲2,074 (2.5%減)
(旧笠間市)		29,853	29,673	29,668						
(旧友部町)		35,604	35,763	35,526						
(旧岩間町)		16,662	16,528	16,303						

燃える郷土愛。全力投球!!

皆様には、いつも私の県議会活動に対し熱いご声援をいただき、感謝申し上げます。

昨年12月の県議選におきましては、特段のご理解とご支援を賜り、お陰様で4回目の当選をさせていただきました。ここに改めて、心からお礼申し上げます。

新しい区割りでの激しい選挙戦の中で、多くの皆様との出会いがありました。明るく元気な笑顔と生の声に接し、一緒に築き合っていく社会の中で、私が政治家としてやるべき事を再認識した日々でもありました。今は、皆様にお約束したことを、何としても実現していきたいと、緊張感と意気込みを新たにしております。

さて、私が長い間ライフワークとしてきた、県立中央病院の救急医療体制が、この度の救急センター、循環器センターの稼働により飛躍的に充実強化されました。皆様はもとよ

り、橋本知事をはじめ関係者のご尽力に感謝をいたします。

私は、開業医の先生方と笠間市立病院、中央病院がこれまで以上に連携を強化し、市民が安心して住める「高度医療と福祉のまち 笠間市」を確立することが、人口減少に歯止めをかけ、他地域から人を引き寄せる力になるものと確信しており、これを地域政策の金看板にしていくべきと考えております。そのためにも、私は、産科と小児科入院の早期再開も含めた中央病院の充実を一層すすめていくつもりです。

皆様には、今後とも引き続きご支援とご指導を切にお願い申し上げます。

茨城県議会議員 常井洋治

